

デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 事業効果検証シート
（R6年度事業分）

		担当課	健康管理課						
交付対象事業名	みどり市元気プロジェクト		R6 事業費 (円)	計画額	4,123,000				
総合戦略の位置付け	強化目標 B 誰もが活躍できる地域社会を実現（全員活躍）			実績額	3,558,686				
事業実施期間	令和2年度～令和6年度			交付額	1,779,343				
事業概要	日常的な活動量の増加や運動習慣の定着による生活習慣病予防や介護予防を推進するとともに、地域の活性化を図ることを目的とする。 活動量計を貸与または自身のスマホにアプリをインストールし、無理のない範囲でのウォーキングを推奨するとともに、体組成や血圧の測定スポットを市内5カ所に設置し、測定を奨励している。ウォーキングや測定結果データはインターネット上に保存され、個々の健康管理に活用できる。また、参加者へのインセンティブとして、歩数や体組成測定状況等に応じてポイントを付与し、地域で利用できる商品券と交換する。								
活動内容	【参加者増の取り組み】 ・4月に継続者に新規参加者を紹介してもらう「早期募集」を実施 ・6月～8月に新規参加者を募集し、9月に初回説明会で事業説明、体組成・血圧測定、歩き方講座、栄養講座を実施 ・働き盛り世代への周知として、市民が集まるショッピングモールと笠懸公民館で「出張測定会」を実施 ・12月に中断者向けにアプリでの再開キャンペーン（期間：令和7年3月末まで）を通知 ・3月に「歩き方講座」を実施 【歩数を増やす仕掛け】 ・健康ポイントを3,000歩以上8,000歩以下で1,000歩ごとに1ポイント付与 ・令和7年1月から2,000歩～5,000歩は1,000歩ごとに1ポイント、6,000歩～8,000歩では1,000歩ごとに2ポイント付与に変更 ・インセンティブとして健康ポイントを協力店舗で使える「元気アップ商品券」に交換 【アプリの活用】 ・参加者への情報発信として、「元気プロジェクト通信」(3回/年)、アプリのポップアップ機能(随時)を活用 ・体組成・血圧測定を促すため、測定結果を打ち出す「測定ウィーク」(9回/年)、「測定月間」(3回/年)を実施。参加者本人が変化を確認できるように、蓄積された測定結果をグラフ表示 ・バーチャルウォーキングラリー実施（歩数に応じて進むWeb上の仮想旅行） 【アプリ機能の拡張】 ・歩数を測定できるようアプリ機能を追加し、令和6年12月からスマホアプリでの参加可能 ・参加者に周知するとともに令和7年1月～3月にアプリのQRコードを読み込む機能を活用して「あるくまちみどり周遊ウォーク」を実施。（市内10カ所に設置したQRコードを読み込むと週2回までポイント付与く笠懸町4カ所、大間々町4カ所、東町2カ所） 【ウォーキングコースの掘り起こしとPR】 ・参加者からお薦めのウォーキングコースやスポットを募集し、ホームページに掲載 ・観光課のパンフレットに歩数や消費カロリー等の健康情報を掲載 ・作成したウォーキングマップを新規参加者及び希望する市民に配布								
主な成果	・参加者数（令和6年度末時点）877人うち新規参加者172人 ・運動に対する意識の高い人の割合：100％ 事後アンケート（回収率26.7％）より ・理想歩数（8,000歩）達成者数 366人 ・「元気アップ商品券」交付枚数 3,541枚								
重要業績評価指標（KPI）	指標（単位）			開始前（R1）	R2	R3	R4	R5	R6
	健康増進及び健康寿命延伸者（人）（1日平均8,000歩達成者数）	目標値	86	111	136	160	183	204	
		実績値		143	183	269	305	366	
	健康ポイント交換数（ポイント）	目標値	0	589,500	623,100	752,700	874,200	987,600	
		実績値		199,750	294,750	328,000	841,750	885,250	
	ウォーキング事業参加者数（人）	目標値	580	740	910	1,070	1,220	1,360	
実績値			542	659	719	721	877		
市民活動に参加した市民の割合（％）	目標値	11.8	13.53	15.26	16.99	18.72	20.45		
	実績値		11.7	9.0	11.4	13.6	28.5		
取組の検証	事業効果	③地方創生に効果があった							
	課題・改善点	参加者数は、増えつつあるが目標値を達成できていない。働き世代（30～50歳代）を増やすための実施方法を検討、スマホアプリで参加しやすいよう、システム改善やネット申込みなどの体制を整えた。また活動量計故障により中断する人もいたが、スマホアプリに切り替えて継続してもらえるケースも増えている。 令和5年度からの本事業参加者の継続率は97.8％と高く、参加者が満足できる事業である。今後、働き世代へのアプローチや新規参加者を増やすことが課題である。							
<事業効果> ①地方創生に非常に効果的であった ②地方創生に相当程度効果があった ③地方創生に効果があった ④地方創生に対して効果がなかった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合 例：KPI達成状況は芳しくなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合									
今後の事業展開の方針	①事業の継続（計画通りに事業を継続する（または、概ね同内容で継続する）） （理由）働き世代が参加しやすいよう、活動量計のほかにスマホアプリでの参加を可能にした。アプリ希望者はホームページや動画視聴にて事業説明を実施し、初回説明会参加を任意とする。インセンティブを商品券から電子地域通貨に変更して継続する。今後、みどり市に関係する在勤者や20歳代の若年層にも対象を広げていく。								
	<今後の方針> ①事業の継続（計画通りに事業を継続する（または、概ね同内容で継続する）） ②事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等さらに発展させる） ③事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または、行った）） ④事業の縮小 ⑤事業の中止（継続的な事業実施を予定したが中止する（または、した）） ⑥事業の終了（当初予定通り事業を終了する（または、した））								
外部有識者会議による評価		①KPI達成に有効であった							
意見		インセンティブだけでなく、歩きやすい環境づくりなど、ウォーカブルなまちづくりの考え方と併せて進めると参加者増に繋がると思うので、より良い事業にするため検討していただきたい。							

①KPI達成に有効であった
②KPI達成に有効とは言えない